

2008 年度 関西学院高等部 学校評価を終えて

関西学院では、学校教育法の改正を契機として初等部・中学部・高等部が互いに連携をとりながら整合性のとれた学校評価（以下、自己点検・評価）を実施する制度を構築しました。

その第 1 回目である 2008 年度は、それぞれの学校が共通の評価項目として学校評価ガイドライン(文部科学省、2008 年 1 月 31 日付)で示された 12 項目の中から「教育課程・学習指導」「生徒指導」「保健管理」「教育環境整備」を選び、さらに高等部は独自項目に「キリスト教主義教育の実践」「人権教育」「情報公開」「自治活動」を加えて実施しました。2008 年度の実施にあたっては、それぞれの評価項目について生徒・保護者・教員のご意見を伺うためにアンケートを行い、客観性を高める工夫をいたしました。

回答いただきましたアンケートの結果を集計し分析したものが自己点検・評価結果として、関西学院評価推進委員会（2009 年 3 月 27 日）において承認されましたのでホームページ上で公表いたします。

今回のアンケート冒頭で質問した「学校生活の楽しさ・満足度」については、生徒・保護者の多くに肯定的評価を頂きましたが、その他の質問を通じて幾つかの課題も浮かび上がって参りました。関西学院高等部はこれからも自己点検・評価を通じて自らその課題を探り、その課題に誠実に向き合って改善することによって質の高い教育活動等を生徒に提供し、また、その結果を社会に公表することによって信頼を高め、課題意識を共有していく所存であります。

2009 年 3 月 27 日

関西学院 高等部

部長 澄田 新

2008 年度高等部学校評価結果

【 教育課程・学習指導について 】

多くの生徒が推薦により関西学院大学に進学する本校では、受験勉強の制約を受けることなく、深い学びを通して一人一人の知性を豊かにすることに目標を置いている。

「教育課程や進級・卒業・推薦に関する共通理解」については、教員・保護者・生徒ともに高い水準で連携が行われていると感じている。また「生徒の学力把握」のうち「外部テストの導入」について、教員は学力分析やその後の指導には十分には役に立っていないと感じているのに対し、保護者・生徒はともに客観的なデータが役立っていると感じる比率が高い。一方「授業の工夫がされている」や「質の高い興味深い授業がある」については、教員・生徒ともに高い評価をしているが、生徒はさらにわかり易い授業を望む傾向が強い。また「補習」についても、教員・保護者は適切に行っていると評価しているが、生徒の満足度は高くない。「接続学部との連携」に関しては、教員・保護者・生徒とも連携を実感できている。

このように関西学院の中にある高等部（高等部生）の位置づけや、情報の共有や認識はできているが、授業や補習という生徒の学習面向上に対する要望に対し、教員はさらに工夫や改善が必要といえる。

【 生徒指導について 】

秩序と規律を重んじつつ、自由な個性を發揮できる学校。一人一人を大切にしつつ、力強い集団を形成できる学校。それが高等部生徒指導の目ざすものである。「教師と生徒のコミュニケーション」については、教員・保護者・生徒の三者共に、「十分コミュニケーションがとれている」という回答が多かった。それに比べ、「守るべきルールの明示や、その指導」については、保護者の多くが「できている」と回答しているのに比べ、教員・生徒は「十分ではない」という回答の方が多かった。生徒の自覚と自発性に期待する学校の姿勢に対し、もの足りなさを覚えているといえる。

「不正やいじめを許さない指導」について、教員には「強くその指導をおこなっている」という回答が多く、生徒では「よく行われている」という回答と「あまり行われていない」という回答が相半ばしている。「問題やトラブルへの対応」については、教員・保護者・生徒の三者共に、迅速で適切な対応がなされているという回答が多かった。全体を通じ、学校が生徒一人一人に配慮したきめの細かい指導を行っているという点について、保護者・生徒共に評価している。今後、自由な個性を重んじつつ、守るべきルールや「不正・いじめを許さない」学校の姿勢を今以上明確に生徒に発信し、バランスのとれた生徒指導を推進していきたい。

【 保健管理について 】

生徒が健康で安全な学校生活を送れるように、健康診断を実施し、その結果により事後指導・管理を行うとともに、日常の疾病や怪我に対し適切な処置を行うよう努めている。「心身の管理」について、教員と保護者の評価は平均より高かったが、生徒の評価はやや低く、学校において自分の悩みを相談する場（相談する相手）が不十分であると判断できる。今後、カウンセラー・教員間で情報交換や連携を図りながら、生徒の心身の悩みに対し相談できる体制を整え、相談しやすい環境を提供するべく改善していきたい。また、様々な事例を研究し専門医の見解を聴講する等により、教員の生徒理解力を深めていきたい。

【 教育環境整備について 】

学校として学習・生活両面で施設・設備、教材・教具が適切に提供・管理されていることを目標としている。高い評価が多く、特に保護者・生徒の設備・施設への満足度は高い。学習面と生活面での学校施設・設備の比較では、教員、生徒の評価で、生活面の施設充実の満足度の方が低いことが見られる。教員の教材・教具の管理、OA 機器管理能力、個人情報保護への配慮の面でも教職員の自己評価は概してプラスであった。この結果から、本校の施設・設備等は、適切に整備・管理されていると考えられるが、特に生活空間としての施設・設備の充実をさらに進めることが必要である。

【 キリスト教主義教育の実践について 】

「キリスト教主義教育の理念の共有」と「推進」については、教員・保護者・生徒共に大切なものとして理解している。高等部教育の根幹の部分が理解され、自覚されていることは、キリスト教主義教育を進める高等部にとっては重要なことである。しかし、「学校外のキリスト教関連団体(教会・ボランティア)との連携・関心」については、教員に比べ生徒にその自覚や関心が少ない。学友会（生徒会）役員・ボランティア部関係の生徒以外では「キリスト教関係団体」との接点が少なく、その関わりを意識する機会が少ないことも原因である。高等部が、キリスト教関係団体と共に歩んでいる現状を更に生徒に伝え、その関心を高めることが今後の課題である。

【 人権教育について 】

高等部における人権講座は毎週 1 回実施されており、学年に応じた内容となっている。また、人権に関する映画鑑賞会や講演会も開いている。それらをふまえ、「生徒の人権意識向上」について、教員の多くは意識向上に努めていると評価している。しかし、それに対する生徒の関心は、低い数値にとどまった。実際、生徒の日常には様々な人権につながる問題が存在するが、人権教育がまだ十分にそこまで切り込めていない現状がある。ネットや携帯電話の普及に伴い、今日の人権問題は多様化しつつある。今後、キリスト教主義教育や情報教育とも連携し、全教員による生徒の人権意識向上への取り組みを強化していくことが目標である。

【 情報公開について 】

対外的な情報公開については、受験生への情報提供と、広く一般社会への学校イメージや教育方針の発信とに分けられる。教員の間では、これらはともに十分におこなわれているという肯定的評価が多かった。一方、生徒については「受験・入学時の情報提供」についてはほぼ満足している。しかし、「学校生活に関する様々な広報誌や通信を通じた情報発信」という項目に関しては、「適切に発信されている」という保護者の回答が多かったのに対し、「その情報が役立っている」と答えた生徒はやや少なかった。せっかくの広報誌や通信によって提供される情報が、余り生徒に浸透していない現状が浮かび上がる。今後、多彩な活動を行う本校生徒の目線や生活により根ざした、魅力的な情報発信を生徒に対しておこなうと共に、生徒自らの手による情報発信にも力を入れていきたい。

【 自治活動について 】

近年本校では、クラブ活動に多大なエネルギーを注ぎ、成果をあげてきた。そのことは教員がはっきり自覚して活動しており、多くの生徒たちもその成果を実感している。その一方で学業とクラブ活動の両立について、多くの保護者が学校としての努力を認めているものの、「配慮が不十分」と考える教員や、「両立できていない」と考える生徒が半数近くいる。今後、生徒たちの自覚を促すような指導が更に必要である。また自治活動に関しては、多くの教員が一定の努力をし、それに対する保護者の評価も多くは肯定的だが、肝心の生徒に「学校行事やホームルーム活動を通じた成長」が十分に実感されていない状況がある。学校行事やホームルーム活動の主旨や教育目的を学校全体で共有し、教員個々人の工夫や努力を全体の活動に効果的につなげることが課題である。